



白洲次郎と 蔵王『鎮守の杜構想』

旧白洲山荘（ヒュッテ・ヤレン、現三宅山荘）の保存・活用の活動について

矢口 正武

（NPO法人元気・まちネット代表）

旧白洲次郎山荘との出会い―

私が一九九五年四月、日本技術開発株式会社に入社したときの社長が永山時雄でした。当時誕生会と称して、誕生月にあたった社員が会議室で社長とランチを食べる習慣があり、私も二度他の社員とともに昼食をとみにしたこ

現在の位置に「曳き家」する前、建設当初のヒュッテ・ヤレンです（右から2人目が白洲次郎、右端は長女の桂子さんと思われ

ます）。【写真】次ページともにもいずれも昭和34年（白洲次郎は昭和26年～34年まで東北電力会長）と思われ

ます。（焼津市・白井氏提供）

とがあります。

二十代のころから蔵王スキー場をホームゲレンデにしており、友人の紹介で旧白洲山荘（ヒュッテ・ヤレン、現三宅山荘）を見学する機会にも恵まれました。

二〇〇六年四月五日放映のNHK「その時、歴史が動いた」は、第二四八



回「マッカーサーを叱った男」白洲次郎・戦後復興への挑戦」で、白洲次郎は貿易庁や商工省を解体して昭和二十三年、通産省（現経産省）を創設する際「官僚にも優秀な男がいる」と、永山時雄を官房長に起用したことを知りました。こうして「蔵王」白洲次郎「永山時雄」矢口正武「蔵王」とい



〔上〕二階のオープンキッチンに立つ白洲次郎。
〔右〕二階の居間にはホームバーがあり、そのホームバーのはす向かいのソファで寛ぐ白洲次郎。

う、不思議な巡り合わせに驚き、この度旧白洲山荘（ヒュッテ・ヤレン、現三宅山荘）保存・活用の会を創設するに至りました。

旧白洲山荘（ヒュッテ・ヤレン）とは――

終戦直後に吉田茂首相の懐刀として連合国軍最高司令官総司令部と渡り合い、彼らをして「従順ならざる唯一の日本人」と言わしめ、その後、初代貿易庁長官・初代東北電力会長などを歴任した白洲次郎の山荘が、二〇〇六年に山形県蔵王で「発見」されました。

昭和二十年代後半に蔵王を訪れた白洲はその魅力に憑かれ、蔵王を「東洋のサンモリッツ」にしようという構想を立てます。山荘はその構想実現の先駆けとして昭和三十二年（一九五七年）、おそらく英国留学時の経験に基づく彼自身の着想に沿って建てられ、「ヒュッテ・ヤレン」と命名されました。「ヤレン」の意味は「スキーはうまくやれん」に由来するといひ、そこには彼が晩年を過ごした「武相荘（無愛想／＼あ

そう)の命名にも通じる、彼特有のユーモアが感じられます。

山荘は豪雪を考慮した一階無筋コンクリート玉石積造・二階木造の床面積約七十平方メートルという小さなものですが、一階は居間とホームバー、二階は当時として珍しいオープンキッチンと蔵王の寒さを考慮した二重サッシなど、当時としては珍しく画期的なアイデアが組み込まれており、現オーナー三宅氏によって丁寧に維持され、若干の改装を除き、外観を含めてオリジナルの状況をよく残していると推察されます。当時の彼の社会的地位から考えれば驚くほど小さなものですが、簡素・質実で、二〇一一年三月十一日の東日本大震災にも耐え、多くの人たちにそれと気づかれぬまま、いまもひっそりと蔵王の樹林のなかに佇んでいます。

私たちはこの事実を知り、ともかくこの山荘を「残したい」と思い、将来の使い方も解らぬまま「残す」ことを

決意しました。その理由は、この山荘が白洲次郎によって建てられたものだからというだけでなく、その何気ない優しい佇まいが彼の愛した山形・蔵王の風景、延いては日本固有の美しい風景を色濃く残していると思えたからです。「東洋のサンモリッツ」という彼の構想は経済一辺倒の開発の波に飲まれて挫折しました。しかし、立案から半世紀を経たいま、その構想を現代において捉え直し、この山荘を残すことを通して彼の想い(精神性)を受け継ぎ、更に蔵王という一地域を超えて、日本にまだ辛うじて残る美しい風景を再生していくきっかけにしたいと、私たちはそう強く考えているのです。

旧白洲山荘(ヒュッテ・ヤレン)は、白洲次郎から現(株)ヤマコーを通じて東京の実業家故三宅馨氏が一九六三年(昭和三十八年)に購入しました。三宅氏は、昭和二十六年頃大学生を対象に自然の中でスポーツを体験させることを目的として蔵王でスキー教室を開き、山荘(ヒュッテ・ヤレン)はその宿舎として利用されてきましたが、一

九七八年(昭和五十三年)山荘の近くに「蔵王上ノ台ロッジ」を建設、営業するようになり、山荘の利用は次第に薄れていきました。

日本のスキー場―

日本は周囲を海に囲まれ、国土の約六〇七割は森林に覆われていますが、戦後の経済復興のかけ声と共に多くの森林が伐採、生態系を無視したスギやヒノキなどの植林が目立つようになりました。一九八七年、内需振興のかけ声によりリゾート法(総合保養地域整備法)が制定され、各地方が民間企業とリゾート開発に血眼になりました。しかしバブル崩壊等の影響を受け、それら多くの開発は頓挫、乱開発のツケが負の遺産(廃業したホテル施設や荒れ果てたスキー場)として見るも無惨な姿をさらけだし、美しい日本の自然景観やまち並みを壊しています。一八九〇年代後半七〇〇を越えたスキー場も現在では五〇〇を切るほどに減少しました。また一八〇〇万人とも

二〇〇〇万人とも言われたスキーヤー（スノボ含む）も現在では三分の一まで減少、その減少傾向に歯止めは掛かっていません。加えて地球温暖化によると見られる降雪量の減少に加え、二〇〇八年頃からナラヤブナ枯れが日本の森林を浸食始めています。さらには外国資本によるスキー場（水資源）の買い占めも大きな問題として国会でも取り上げられています。

なぜ保存・活用なのか――

二〇〇六年（平成十八年）NHKの「その時、歴史が動いた」がきっかけとなり、旧白洲次郎山荘が俄に脚光を浴びるようになり、地元関係者による「白洲次郎を語る山形の会」が結成されました。

そして地元温泉関係者が現所有者の三宅氏に「蔵王温泉の活性化」に活用させて欲しいと願い出て、山荘周辺の環境整備を行い、案内板などの設置を行ないました。

しかし木造二階建ての山荘は築半世

紀が経過して老朽化が目立つようになり、それを危惧したNPO法人元氣・まちネット（以下元氣・まちネット）が所有者の三宅氏に「山荘の保存・活用」に向けた募金活動の展開を願って快諾を頂きました。

元氣・まちネット（代表矢口正武／ランドスケープアーキテクト／スキーヤー）は、仕事仲間の建築家塩田能也（注1）に協力を依頼、「蔵王プロジェクトM・J」（注2）を立ち上げ、山荘の内・外観の診断を数回にわたって行い、『旧白洲次郎山荘と蔵王を語るミニフォーラム』を蔵王始め東京や仙台で開催、このプロジェクトにかける想い『鎮守の杜構想』とともに、募金活動の呼びかけを行っています。

注1・葛西臨海水族園の建築設計塩田、外構造園は矢口が担当した。

注2・「蔵王プロジェクトM・J」（M:三宅山荘、J:hute・jaren）

――鎮守の杜構想

蔵王温泉観光協会元会長の故伊東秀

幸氏は「古き良き湯治場、長期滞在型のリゾート地の復活がいいと思う。それには樹水資料館とか白洲次郎さんの山小屋とかが必要と思う」

またスキー界の重鎮岸英三氏は「ヨーロッパのスキー場に向かう道路には『何とかスキー場』なんていう看板はない。スキー場なんていうのは雪があるからスキー場だろう。蔵王はスキー場に集中しすぎて来た。春・夏・秋・冬いつでもいらっしやい、ってことだよ」（やまがた街角2006年12・07年1月号特集に寄せている。）

鎮守の杜（森）というのは、かつては神社を囲むようにして存在した森林のことをいいます。神社を遠景から見ると、たいていはこんもりとした森があり、その一端に鳥居があります。鳥居から森林の内部に向けて参道があり、その行き当たり境内や本殿があり、その背後には森林の中央部が位置するようになっていて、森の深い方に向かって礼拝をする形になっています。

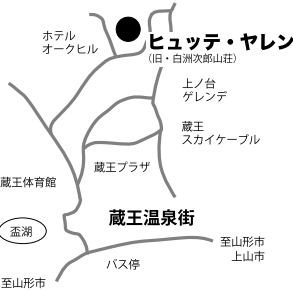
このことから「杜（やしる）」が先

に在ったのではなく、信仰された森に社が建てられたことが良くわかります。鎮守の杜とは本来、森林や森林に覆われた土地、山岳（霊峰富士や山形であれば蔵王権現や出羽三山など）・巨石や海や河川（岩礁や滝など特徴的な場所）など自然そのものが信仰の対象になっています（ウイキペディアより抜粋）。

蔵王温泉スキー場を考えると、蔵王には他のスキー場では滅多に見ることが出来ない樹氷がすぐ目の前で観賞出来る環境にあります。他にもブナやコナラ、ミズナラ、カエデを始めとする落葉広葉樹林に囲まれ、新緑の春・夏、紅葉の秋と、四季折々に変化する季節の移ろいを楽しめる環境にありながら、スキーヤー、スノーボーダー（冬季）に頼り切って来た過去があります。これからは春、夏、秋、冬の四季を楽しめる山岳・温泉保養地「蔵王」として、新しい観光振興策に転換する（しなければならぬ）時期に来ていると私は思います。

蔵王プロジェクトM・Jは白洲次郎

が遺した「精神性」や伊東氏、岸氏が提起した諸課題を念頭に置き、この山荘を「鎮守の杜」核」として位置づけ、このエリアから「スキー場一辺倒」の考えから脱し、「山岳・温泉保養地」蔵王と東洋のサンモリッツ」の蔵王温泉としての転換を図りたいと考えています。



個性派も一匹ぐらい蟻の列

鎌田 一尾

蔵王プロジェクトM・J

NPO法人元気・まちネット/東京 代表理事：矢口 正武
造園家（ランドスケープアーキテクト）、地域活性化学会会員

information 1 <白洲次郎シンポジウムと紅葉の蔵王散策>

10/20(土)～21(日) 【白洲次郎が愛した蔵王―鎮守の杜構想について―】

- ・期日：10月20日(土)
- ・場所：山形市総合福祉センター
- ・時間：13:00～受付、14:00～17:00シンポジウム（懇親会有り、有料）
- ・費用：¥1,000-（資料代）
- ・募集：100名

★蔵王と次郎の写真50枚を新しくご紹介します。

information 2 <紅葉の蔵王散策と旧白洲山荘見学>

- ・期日：10月21日(日)
- ・時間：9:30～15:00 (a.m.9:30 蔵王上の台山交ケーブル前集合)
- ・費用：¥1,000-（ガイド料）
- ・募集：30名

★申し込み★

- ・yaguchi.m@so-kk.jp 又はFAX：03-3829-4692（担当：矢口）
- ・住所、氏名、年齢、連絡先明記、費用は当日頂きます。